

～令和6年度ユース審判活動報告～

令和6年度 県下高校サッカー大会 3位決定戦を終えて

レフェリーアカデミーチーフ 白石栄二

「2種委員会の先生方のご協力をいただき、県下高校サッカー大会（男子・女子）の3位決定戦をユース審判員で担当させていただけたことに深く感謝申し上げます。サッカー競技規則の基本的考え方と精神をもとに、「公平・公正」なレフェリングをすること、審判を通して技術だけでなく人間性の成長を目指し、今年度は11名のレフェリーアカデミー受講生で研修を重ねてまいりました。まずは、8人制の1人審判を経験し、プレーを常に良い位置で（いつ、どこで、どのように）、1人で監視することの難しさを体感することで、11人制の審判に活かしていく活動を行いました。今年も「JFA 全日本U-12サッカー選手権大会」に審判員を派遣できたこと、決勝戦の主審を担当したことに嬉しく思います。レフェリーアカデミーの研修の場を提供していただいたチーム関係者や、大会関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、学業と部活動の両立や審判活動の機会をつくり出したユース審判員に感謝いたします。今後とも、ユース審判員がよりよいレフリングができるよう指導していきたいと思っております。」

○男子 3位決定戦 @大津町運動公園球技場（R07.02.02）

ルーテル 2-1 熊本国府

主審 財津 友誠（東稜高3年）

「今回、県下大会の3位決定戦という舞台をユース審判員に任せていただき、ありがとうございました。去年は第4審判を担当し、今年度も引き続き担当させていただきました。ひとつの試合を作り上げていく上で考慮する事が多く、とても楽しく良い経験をする事ができたと思います。試合の流れを読んでポジショニングを変化させながらも、判定の基準を保ち続けるなど、まだまだ多く学ぶべきものがあると感じました。今回学んだことをこれからの審判活動に活かしていきたいと思っております。」

副審1 佐々木 悠丞（天草高1年）

「今回、このような素晴らしい機会をいただきありがとうございました。このような大きな試合で副審をすることは、初めての経験で緊張していました。そのため審判団とコミュニケーションが取れるか不安でしたが、主審を中心に積極的に話し合いを行ったことで、安心してミーティングから試合、そして反省会まで終えることができました。インストラクターからゴールした時の主審とのアイコンタクトなどアドバイスを受けたので、これからの審判活動に活かしていきたいです。」

副審2 久富 進波（星翔高1年）

「今回、3位決定戦という素晴らしい機会を与えていただきありがとうございます。4人の審判員で試合をコントロールすることの難しさや、主審を中心に審判団をまとめる力の重要性を感じました。私はオフサイドの判定のタイミングについてインストラクターの方に教えていただき、成長することができました。他の審判員の方の動きや、インストラクターの方に教えていただいたことを、今後の審判活動に活かしていきたいです。」

第4の審判 黒田 颯汰（天草高2年）

「個人的には、久しぶりの審判活動で緊張した部分も多かったが審判団とコミュニケーションをとり、良い雰囲気の中で試合に挑めたので良かったです。第4審では思いもかけないハプニングもあったが、スムーズに対応が出来て良かったです。第4審をした中で反省点も振り返ることができ、主審の財津くんの良かった点、副審2人の良かった点を見つけることができたことは、今後の活動に取り入れてより良い審判員になれるように頑張ろうと思えるきっかけとなりました。」



〇女子 3 位決定戦 @秀岳館人工芝グラウンド（R07. 02. 01）

東海星翔 2-0 秀岳館

主審 森川 潤（熊本工業高3年）

「今年の県下大会（女子）3 位決定戦という舞台で、主審という役割を果たせてとても嬉しく思っています。4 人とも高校生ということで、主審としてリードすることはとても難しく重責だと思いました。試合での動きは、切り替えの部分が遅れ、審判団での打ち合わせや話し合いの足りない部分が試合に出ていたと感じました。また、アセッサーの方から様々なアドバイスをいただき、とても感謝いたします。様々な課題と 2 級昇格の目標に、これからの審判活動に専念していきたいと思えます。」

副審 1 財津 友誠（東稜高3年）※上記の記載のため、コメントは割愛させていただきます。

副審 2 緒方 陽紀（水俣高2年）

「今回、県下大会（女子）の 3 位決定戦という大事な舞台で、副審を務めさせて頂いた事に大変嬉しく思います。私は経験も浅く緊張していましたが、審判団とコミュニケーションをとりながら一緒にコートの確認や試合中の注意する事など、様々なことを確認できてよかったです。しかし、オフサイドのフラッグアップのタイミングやオフサイドラインのキープ、知識や技術不足などもあったので、これからは自身の役割に責任を持って取り組みたいと思えます。試合後の反省会でも、多くのアドバイスをもらう事ができたので、これからの活動に活かしていきたいと思えます。」

第 4 の審判 松川 李玖（熊本農業高 2 年）

「今回、県下大会（女子）の 3 位決定戦という素晴らしい機会を担当させて頂き、ありがとうございます。高校に入って初めての第 4 番で、とても貴重な経験をする事ができました。交代の手続きや用具のチェック、そしてベンチコントロールなど様々な第 4 審判員の援助を学ぶ事ができました。アディショナルタイムの表示の際は、あたふたした場面もあり、もっと審判員とコミュニケーションをとり、落ち着いてできるようになることが必要だと思えました。学んだことを今後の審判活動に活かしていきたいと思えます。」

